



【学校教育目標】「人間性豊かな心を持ち 実践力のある生徒の育成」
— 気付き、生かす —

若松中だより

千葉市立若松中学校
校報
第 64 号
令和 3年 3月16日

第40回卒業証書授与式を挙行了しました

校長 古市 直彦

3月12日(金)、朝方からの降雨も心配されましたが奇跡的に晴れ、本校の第40回卒業証書授与式を無事に行うことができました。来賓の方や在校生の参加もなく、内容も厳選しての実施となりましたが、堂々と卒業式に臨む卒業生の姿は本当に立派でした。私の式辞と卒業生代表別れの言葉の内容を紹介いたします。式に参加できなかった皆様に、少しでも雰囲気を感じていただけたらと思います。

卒業式 式辞

まさに後の伝説となるような一年間でした。昨年度の三月から続いた、三ヶ月間にも及ぶ休校期間が明け、やっと6月にスタートすることができた令和2年度でしたが、その後の学校生活も、順風満帆とはいきませんでした。「三密」を避けた新しい様式の中での学校生活。制限のある学習活動。そして、市総体や各種コンクールの中止。今まで、当たり前のようにできていたことができないもどかしさ。我慢するしかない日々。さぞかし辛かったことでしょう。

そのようなコロナ禍の下でも、平静を装い、普通に学校生活を送っていた卒業生の皆さん。行動で、そして、その背中で若松中学校生徒のあるべき姿を下級生に示してくれていた、卒業生の皆さん。本当に立派でした。だからこそ、修学旅行は行かせてあげたかった。諏訪湖の船上で観た花火、そして皆さんの喜ぶ姿…。一生忘れないと思います。そのあとに行った、剛く華やかに走り抜いた体育祭、自由曲一曲に魂を込めた合唱コンクール。こども制限のある活動であったにもかかわらず、皆さんは、笑顔でやりとげてくださいました。ありがとう。

そんな皆さんと、今日ここに、本校第40回卒業証書授与式を挙行できますことを、本当に嬉しく思っています。卒業生の皆さん、保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。

密を避けるために、ここに、職員一同が揃うことはできていません。ご来賓の方にも参加をご遠慮いただき、在校生にも、我慢してもらっています。でも、心は一つ、今ここにいます。

そんな皆さんに私が最後に贈りたいのは、やはり、冬休み明け全校集会で紹介したこの言葉です。

「挑戦が力を生み、継続が力を深める」

今日は、皆さんにとってのゴールではなく、新しいスタートの日です。これから皆さんが歩いて行く道にも、きっと数多くの試練が待ち構えていることでしょう。コロナ禍もまだまだ続きそうです。それでも、皆さんなら、若松中での経験を生かし、挑戦をし続けてくれること信じ、期待しています。

さて、保護者の皆様、本日は、お子様のご卒業、誠にありがとうございます。立派に成長し、新しい生活に向かう輝かしい前途を心より祝福申し上げます。

本年度は、保護者の皆様に学校にお越しいただき、お子様が活動する様子をご覧いただくことができず、本当に心苦しく思っております。それでも、本日まで、本校に対して、いろいろとお力添え・ご支援をいただきましたことに、厚くお礼申し上げます。私達、教職員一同、微力ながら、精一杯お子様の教育に携わってまいりましたが、十分でなかった点もあったかと思っております。今日の日を迎えることができましたのも、ひとえに保護者の皆様方の、温かいご協力があったからこそと思っております。心より、感謝申し上げます。ありがとうございました。

それでは卒業生の皆さん、これからも、挑戦を継続し、さらに成長していきましょう。

若松中学校は、ずっと皆さんの母校であり、皆さんを応援し続けています。卒業する皆さんの前途が幸せに満ちていることを心から祈り、私の式辞といたします。

(千葉市立若松中学校 校長 古市 直彦)



別れの言葉

- M** 肌を刺す冷たい外気も、穏やかな風に変わり、前に進む私たちの背中を心地よくあと押してくれる季節となりました。本日、私たち198名は、この思い出多き若松中学校を卒業します。
- O** 今日の卒業式に参列していない在校生、先生方、地域来賓の皆様、そして私たちの家族。多くの方々の準備や支えがあってこの式が行われていることに心から感謝申し上げます。
- M** 平成30年4月6日、私たちは着慣れない制服に身を包み、入学式を迎えました。担任の先生が呼んでくださった呼名の返事は、まだ幼さが残っていたはずです。知らない顔ばかりだった友達も、ともに同じ時間を過ごしともに行事を乗り越える中で、少しずつかけがえのない存在になっていきました。
- O** クラス替えがあって迎えた2年生。夏を過ぎると私たちは生徒会や部活のリーダーになりました。夢や抱負をもってなったはずの委員長や部長の仕事も、現実の壁にぶつかって、実現できなかったことも多くありました。生徒会本部役員の私たちも、どうすれば学校をリードできるのか何度も悩み、みんなと話し合いました。そんな時、相談ののってくれた友達や先生方のおかげで、次の学年にバトンを無事に渡すことができました。
- M** 2年生が終わろうとしていた一年前の3月、想像もしていなかった突然の休校。新型コロナウイルスなんて僕たちには関係ないと思っていた分、驚きはとても大きかったです。最初は気楽でいいなんて感じていましたが、友達と会えない寂しさは日増しに募り、授業を受けられない中で直面する受験勉強への不安が大きく膨らんでいきました。
- O** 再びの感染拡大が懸念される中、実行委員が準備し、決行された9月の修学旅行。いくつもの制限が加わりましたが、雄大な自然に囲まれながら見学した黒部ダム。会話が弾んだ諏訪と松本への班別行動。どれも心に残る思い出となりました。そして二日目の夜、先生方のサプライズで行われた、諏訪湖ナイトクルーズ。先生方の子供のような無邪気な姿と、友達たちの呆然とした顔は忘れることができません。美しい夜景と目前で打ち上げられた花火の見事さは、いつまでも心に刻まれています。
- M** 感染拡大が心配される中、先生方や実行委員の慎重な判断のもと、体育祭と合唱コンクールが行われました。チーム競技はクラス対抗リレーだけになってしまいましたが、どのクラスも優勝を目指して最後まで駆け抜けました。歌の練習は、パートで練習日が分けられました。迎えた本番、心配されたハーモニーは、どのクラスも最高の仕上がりでした。
- O** 当たり前のことを馬鹿にせず取り組んだ三年間。心を一つにして成功させた数々の行事。心の底から「みんなといて良かった」と感じています。その絆があったから私たちは、15年間で最大の試練「進路決定」を乗り越えることができましたのです。
- M** 旅立ちの日を迎えた今、ようやく気がきました。夢実現への道は決して平坦ではなく、時には孤独と闘いながら、険しい道をたどることもあることを。しかし、これからどんな壁にぶつかっても私たちは乗り越えられるはず。みんなと分かち合った一つ一つの思い出が、今私たちの胸には刻まれています。
- O** 無事にこの日を迎えられたのは多くの方々の励ましや支えがあったからです。校長先生をはじめとした先生方、そして家族。今まで本当にありがとうございました。これから私たちは、それぞれが自分で選んだ道を、自分の力で進んでいきます。最後に、若松中学校のますますの発展と、諸先生方のご活躍を祈り、別れのことばといたします。
- M** さようなら、先生方。さようなら若松中学校。

(卒業生代表 M O)



別れの言葉の中では、卒業生全員が一齐に起立し、全員で職員席に向かって感謝の気持ちを伝えてくれる…というサプライズもありました。職員一同、涙腺が…。

様々な制限が有り、通常よりは短縮した形の卒業式になってしまいましたが、それでも帰り際に「素晴らしい卒業式をありがとうございました」と言ってくれた3年生もいました。

心が一つになった、伝説となる卒業式でした。